

関東EPO ローカルパートナーシップ研修 2022

地域循環共生圏(ローカルSDGs)に向き合う 1Dayトレーニング

SDGs時代対応型自治体職員になるための筋トレプログラム

AM



トレーニング① 思考編

SDGs時代に自治体職員に求められる
ことは何かを考えるポイントを整理しよう

PM



トレーニング② 実践編

事前に準備したタスクシートを題材に
思考編の学びを活かして
モヤモヤの突破口を共に考えよう

ワークショップまとめ

ワークショップで話し合ったことをまとめました。



- 関東EPOローカルパートナーシップ研修2022にご参加いただいた皆さんの議論をもとに、「SDGs時代対応型自治体職員になるために必要な筋トレ」をまとめました。
- 学んで終わりではなく、ぜひ、実践で活かしてほしいという思いでまとめました。参考にしていただけると幸いです。

従来の行政の組織の在り方の特徴

- 縦割り
- 「人」ではなく、「組織」で仕事
- 異動による繋がり of 分断

これまでの行政の在り方が育てた副産物

- 雰囲気風土**
 - 事なかれ主義
 - 自分のこと(仕事)だけやれば良いの思考
 - 初めてへの抵抗
 - 新しいことへの拒否・抵抗
 - やる気根性
 - 失敗許されない? チャレンジしにくい
 - 完璧主義
 - 全体の関心の薄さ
- 人材**
 - 岩盤層
 - 上司たちが市全体・庁内全体を考えた判断をしない
 - 逃げ切り世代
 - 上司が話を聞いてくれない
 - トップと上層部の事業整理

今、行政の組織内にあるもの

井の中の蛙が心地よい病の蔓延

- メンタルモデル
- マクロの問題ミクロ化
- 擦り付け合い

構造パターン

社会の変化に対応できない内部の体制/人材の考え方

- 推進体制・庁内体制(が整ってない)
- 内外部の関係性希薄
- 内部連携(ができない)
- 教育体制(が整ってない)
- SDGs 庁内他部署の巻き込み方
- 内輪感を出してさらに閉鎖的

行政の組織の外とのつながり方

何のために、何をしているかが分からない

- そもそもどうする
- ゴールが見えない事業

ので

誰に、何を、どうやって伝えたら良いか分からない

- 情報発信効果的な方法?
- SDGs 住民に自分事としてもらうには
- 地域の声を聞くPF(がない)

ので

誰と、どうやって関係構築したら良いか分からない

- 民間との繋がり方が分からない
- 外部の巻き込み方
- 市民との関係性

ついでに

導入すべきものとそうでないものの判断がつかない

- デジタル遅れ
- DXとかGXとか脱炭素とか...

リスクとコスト

- アクション → 仕事増える
- 業務は増える
- 人が減る

今、行政の組織内で起きていること

できる人は限られる

挑戦できない

仕事のやりがいロスト

- 働くやりがい?

徒労感

組織から遠ざかる人材

- 優秀な職員が退職していく現状

前提!

社会はそもそも複雑

地域課題ももっと複雑

行政だけでできることは
何もない

課題がなくなる
ことはない

たくさんの人が
関わっている

予定通り進まない

LET'S
TRY!

複雑なものを複雑なまま受け入れ、「良質なカオス」を作る

- 多様な価値観を持つ多様な主体が、地域の今とこれからについて目を向け、知恵を出し合う場を作る。異なる主体同士の協働を促す。

地域の持続可能性を、基幹産業から考えてみる

- 多様な主体の知見を借りて、地域の持続可能性を探るためには、関わる主体が多いであろう基幹産業を切り口にしてみると、資源と可能性が見えやすい

危機感を共有する

- できたらいいよね、というレベルではない。取り組まなければ、地域の人、自分たちの、命が脅かされるレベルの話であることを、共通意識として持つことからスタートすると、簡単に諦められない

視座を行き来する

- 行政の考え方・目線からではなく、相手の立場で考える。視点を反転する。
- 例えば、住民目線だと、その事業は何の意味があるのか?そもそもを考える。

役割でも組織名でもなく、人を探す

- 庁内では、誰がこの課題意識や、プロジェクトのミッションに「共感」してくれるのか?庁外で、目線合わせができるキーパーソンは誰か?

取り組む必要性と正当性を言葉にする

- 危機感が共有できても、具体的に動ける人が少ないのが現状。なぜ取り組む必要があるのかを、業務や事業に結び付けてつながりを確認すると、具体的な動きと役割分担が見えてくる

弱さを受け入れる

- 行政ができないことを把握し、ちゃんと外部に頼る▷地域プラットフォーム形成へ
- せめて、民間の邪魔をしない、させない。

説得ではなく共感を引き出すコミュニケーション

- 「これをやってほしい」ではなく、「この課題と一緒に解決してほしい」
- 何のためにやるのか、目的とプロセスを共有する

行政の外側に、アジトを作る

- 続けるためには、業務と紐づけながらも、自由に議論を続ける場が必要
- 行政以外の人のパートナーがいるとなお心強い

and
MORE

庁内複業政度の導入
※「副」業ではなく、マルチに考える

分野横断プラットフォームを行政の
施策に位置づける

2つ以上の課の担当者同士で企んで
みる